

4. 湖東地域での医療・介護提供体制のあるべき姿（目指す姿）

住民と専門職、互いが持つ力を高め合い、住みなれた場所で安心して

暮らし続けることができる湖東を目指して ～本人(家族)と専門職、みんなでチームをつくる～

あるべき姿の実現に向けた在宅医療・介護連携推進事業における取組の方向性

住民への意識啓発



- 住民が、かかりつけを持ち、普段から医療や介護の関係者と自身が望む暮らしについてその思いを共有し、互いの信頼関係を築いておくことができる。
- 住民が、病院と診療所の役割の違いや現在の医療制度、また、介護保険制度の理念等について理解し、サービスを適切かつ効果的に利用することができる。
- 多職種が連携し、療養生活を支えることで、在宅での療養や看取りが可能であることを住民が知っている。

多職種連携の促進



- すべての職種が自らに求められている役割、他職種の業務や役割について理解している。
- 関係機関や関係職種が利用者の情報を効率的に共有することができる。また、支援に必要な情報を全職種が容易に入手できる。
- 多職種が面をつながるネットワークをつくることができる。

在宅医療を支える体制・仕組みの構築



- 病院と診療所、診療所間など、互いにフォローしあえる体制がある。
- 訪問診療、訪問歯科診療、居宅療養管理指導(薬剤等)、訪問看護やリハビリなど、在宅での生活を望む人が利用できる支援体制がある。